

医薬品副作用・感染症症例票

識別番号	C00-1834	2000年6月23日	2000年5月26日	2000年5月15日	同一症例番号	年月日	死・感・重未・先・密・改・OTC (厚生労働省処理欄)
区分	副作用	15日	登録番号	C00-727	情報入手日	2000年5月15日	無
患者略名 Y.D.	3 女性	入院・外来 外来	妊婦:	無	医薬品副作用歴:	無	主な既往歴・患者の体質等:
職業:	なし	医療機関所在地:	兵庫県	経路	用法	使用理由 原疾患には下線 合併症には()	意識レベルの低下、意識レベルの低下、脂質代謝障害NOS
販売名 (企業名)	S・O	一般名	開	始	終	年月日	副作用・ 感染症名
シムトレル (日本チバガイギー)	S	塩酸アマンタジン	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/3/29	副作用・ 感染症名
ホスミンS (明治製薬)	S	ホスホマイシンナトリウ ム	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/2	2000/3/31	副作用・ 感染症名
プリンペラン (藤沢薬品)	O	メトクロプラミド	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/2	2000/4/1	副作用・ 感染症名
セフゾン小児用 (藤沢薬品)	O	セフジニル	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/4/3	副作用・ 感染症名
アトック:シロップ (山之内製薬)	O	フマル酸ホルモテロール	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/4/4	副作用・ 感染症名
ペリアクチン (万有製薬)	O	塩酸シプロヘプタジン	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/4/6	副作用・ 感染症名
アスベリン (田辺製薬)	O	ヒベンズ酸チペピジン	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/4/7	副作用・ 感染症名
ビソルボン (日本ベーリンガー)	O	塩酸プロムヘキシン	2000/4/1	2000/4/1	2000/4/6	2000/4/8	副作用・ 感染症名
再投与:	無	その他の治療:	有 (その他 (グリセリン澗腸、ラキソバロン内服 (2000年3月31日)))	転帰:	回 (2000年5月12日)	咳出現、徐々に悪化。 朝より、発熱、腹痛、悪心あり。 21:20。体温38.8℃。ペネシリン内服開始。22:30に、発熱のため ホルモン坐薬12.5mgx2/3挿肛。 午前。来院時体温39.4℃、咳嗽ひどく、腹痛、嘔気あり。リゲム、ブ リパチ、シーラ、ネジシ点滴後帰宅 (4月2日も実施)。シトル、セゾン 、アトック、ペリアクチン、アスベリン、ビソルボン投与開始。 午前。来院時、体温38.2℃。発熱中等度となるが、他の症状持続し 、3日間ほど固形食をほとんど食べず、リゲム、シーラ点滴後、 帰宅。 午前。来院時、体温37.4℃。前日17:30頃よりぐったりしており、 傾眠傾向で夜中にシ150ml飲んだだけとのことで、インフルエンザ脳症疑 いで、A病院へ搬送入院となる。入院時血糖67mg/dl、尿ケトン体 (+++)であったが、入院時は意識清明で、入院中点滴施行されていた。C T、EEG異常なし。インフルエンザ抗原 (-) で、ケトン体血糖の疑いと診断 される。 軽快退院となる。 午前。来院時37.3℃。A病院入院中も、常に38.0℃まで体温上昇あり 。咳持続、時々腹痛あり、食欲がまだ少なく、リゲムを点滴後帰宅 (血 糖97mg/dl)。 午後。来院時、体温37.3℃。前日夜も38.2℃の発熱あり。症状続き 、リゲム、シーラを点滴後帰宅に向かう。 12:45。急に暴れだし、尿失禁後昏睡状態になる。 13:00。来院時、傾眠傾向 (II-3度)、血糖25mg/dlで、20%糖液20 ml静注後、意識障害改善 (I-2度)。点滴開始後の尿ケトン (-)、 尿酸 (++++) で入院加療となる (後日、尿ケトン/尿酸高値 (23.7μg/ml g)、正常値3μg/ml) と判明。 14:40。血糖192mg/dl、意識清明。16:30。血糖104mg/dl。 空腹時血糖83mg/dl。症状徐々に改善して、食欲でてきたため、点滴	